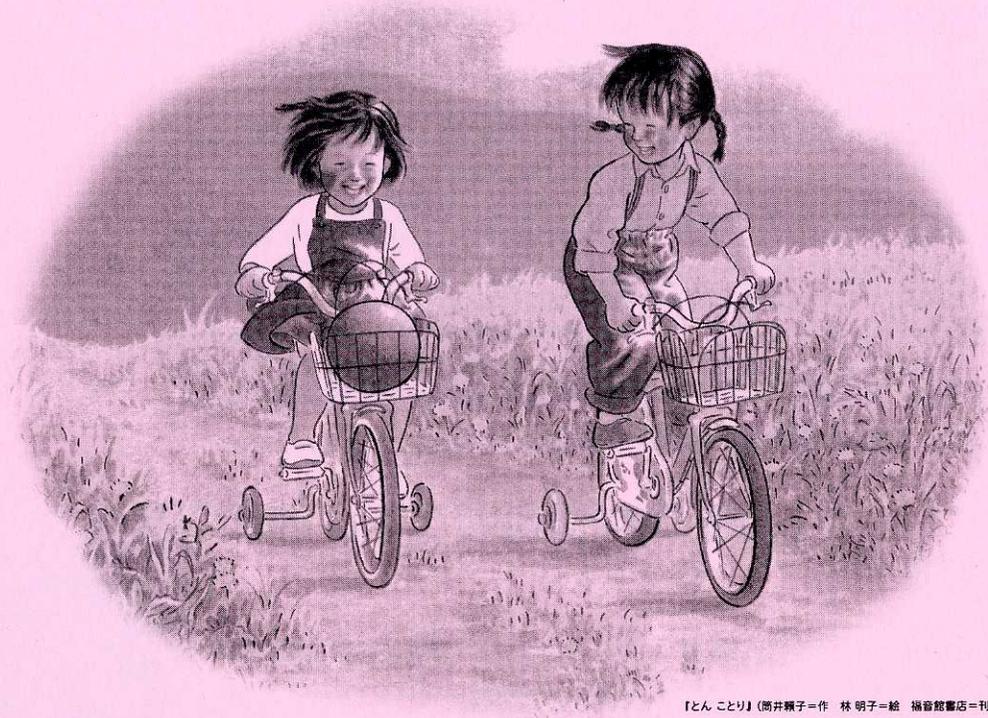


財団法人 成長科学協会 主催

## 第18回公開シンポジウム

# 心を育てる遊び

平成17年6月11日(土) 13:30~16:30  
新宿明治安田生命ホール



「どん ことり」(筒井頼子=作 林 明子=絵 福音館書店=刊)より

### プログラム

テーマ「心を育てる遊び」

司会 丹羽洋子(育児文化研究所所長)

1. 開会あいさつ

2. 演者からの提言

「ミュージアム:

サイエンスとアートを結ぶもの」

下條信輔(カリフォルニア工科大学生物学部教授)

「心の発達における子どもの遊びの意味」

加用文男(京都教育大学幼児教育科教授)

休憩

3. 質疑応答及びディスカッション

廣中直行

(専修大学文学部心理学科非常勤講師)

柿沼美紀

(日本獣医畜産大学比較発達心理学教授)

4. まとめ

### ごあいさつ

財団法人成長科学協会は、身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、“心の発達研究委員会”(委員長:長田久雄・桜美林大学大学院国際学研究科教授)を中心として活動を続けております。

この委員会が企画いたします公開シンポジウムも今回で第18回目を迎えました。今回の主題は「心を育てる遊び」というテーマです。

現在第一線で活躍されているお二人の研究者の先生にご提言をいただき、幼児期・児童期の遊びや身体感覚が、科学的、心理学的に脳や心の発達にどのように影響するのかを中心にわかりやすくお話ししていただき、同委員会委員の廣中直行先生、柿沼美紀先生のコメントを交えながら、質疑応答及びディスカッション、まとめを進めてまいりたいと思っております。

司会は、同委員会委員の丹羽洋子先生にお願いしました。是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

財団法人 成長科学協会  
理事長 入江 實



## 「ミュージアム：サイエンスとアートを結ぶもの」

下條信輔

日本では青少年の理科離れを危惧する声があがって久しい。その「対策」は、本質的な意味では理科の授業よりは課外、特に幼少時の自然や科学との接し方に関わると思われる。ここでは知覚研究、特にイリュージョンの研究をベースに、欧米のものまねではないオリジナリティある展示作品を創るべく、内外のサイエンスミュージアムで展開してきたアーティストらとのコラボレーションを紹介する。遊びの中に発見があり、体感の驚きからアートとサイエンスの芽が芽生える。その過程を支援し促進するのが狙いである。

しもじょう しんすけ●1955年東京生まれ。東京大学人文科学科大学院博士課程修了、マサチューセッツ工科大学大学院修了、同Ph.D.。スミス・ケトルウェル視覚科学研究所(サンフランシスコ)研究員、東京大学総合文化研究科助教授、マサチューセッツ工科大学／ハーヴァード大学客員教授などを経て、1997年カリフォルニア工科大学生物学部／計算神経系准教授、1998年より同教授。また2005年までNTTコミュニケーション科学基礎研究所リサーチプロフェッサ、同年からはJST.ERATO「下條潜在脳機能プロジェクト」研究総括も兼任。専門分野は、知覚心理学、視覚科学、認知神経科学。著書に、『まなざしの誕生』(新曜社)、『視覚の冒険』(産業図書)、『サブリミナル・マインド』(中央公論新社)、『〈意識〉とは何だろうか』(講談社)ほか。これら一連の著作により、1999年サントリ一学芸賞受賞。新聞コラム、科学技術館での作品展示、ディレクションなどでも知られる。

## 「心の発達における子どもの遊びの意味」

加用文男

子どもの遊びを意義の観点から論じていけばよかった時代から、面白さや魅力の点からも見なければならなかった時代への変化の中で、現代の遊び論はどうあるべきか？ ①感情的揺さぶり論、②背景論(This is play論)、③残存変容説、④交差分化説、という新しい4つの考え方を深めていく必要があると考えています。今回は、この中の特に③を取り上げて報告してみたい。これは幼児期や学童期の遊びの多くはその起源・原初的形態・基盤的成分を3歳未満の乳児期に持っており、それが幼児期以降に新しく獲得してくる能力と結びついて発展していくのであるが、以前の成分は消えることなく残存していき、遊びによってはそれが変容していく場合もあり、この変容の仕方がその後の遊びのあり方に大きな影響を与えているのではないか、という考え方です。この考え方に立って、ごっこ遊び、ルールのある遊び、探検遊び、泥だんご作りなどに触れながらお話ししてみたい。

かよう ふみお●1951年高知県生まれ。東京教育大学心理学科卒、東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。現在、京都教育大学教授(幼児心理学)。専門領域は、子どもの遊びの発達心理学。

## 丹羽洋子

にわ ようこ●育児文化研究所所長。育児ジャーナリスト。埼玉県立大学短期大学部および白梅学園短期大学非常勤講師。著書に『今どき子育て事情』(ミネルヴァ書房)、『職安通りの夜間保育園』(ひとなる書房)、『小児科医者・内藤寿七郎物語』(赤ちゃん和妈妈社)。

## 質疑応答及びディスカッション

## 廣中直行

ひろなか なおゆき●専修大学文学部心理学科非常勤講師。実験動物中央研究所、理化学研究所・脳科学総合研究センター、専修大学文学部心理学科教授を経て、2005年4月より、独立行政法人科学技術振興機構「下條潜在脳機能プロジェクト」嗜癖行動研究グループ、グループリーダー。医学博士。日本薬理学会学術評議員。

## 柿沼美紀

かきぬま みき●日本獣医畜産大学比較発達心理学教授。文学博士。専門は、幼児期の社会認知の発達。研究テーマは「子どもの社会性の発達」「養育態度の文化比較」並びに「チンパンジーと人の子育ての比較検討」。中野区教育委員。

主催 財団法人 成長科学協会  
企画運営 心の発達研究委員会

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-1-16 NP-IIビル  
TEL 03-5805-5370